

医療法人生寿会 五条川リハビリテーション病院 2025プラン

令和5年7月 策定

【医療法人生寿会 五条川リハビリテーション病院の基本情報】

医療機関名：医療法人生寿会 五条川リハビリテーション病院

開設主体：医療法人

所在地：愛知県清須市春日新堀33番地

許可病床数：160

（病床の種別）一般病床40床 療養病床120床

（病床機能別）回復期機能100床 慢性期機能60床

稼働病床数：160

（病床の種別）一般病床40床 療養病床120床

（病床機能別）回復期機能100床 慢性期機能60床

診療科目：内科 リハビリテーション科 腎臓内科（人工透析） 血管外科

職員数：248名

- ・ 医師 32名（常勤5名 非常勤27名）
- ・ 看護職員 78名（看護師70名 准看護師8名）
- ・ 看護補助者 37名
- ・ 薬剤師 3名
- ・ 放射線技師 2名
- ・ 臨床工学技士 9名
- ・ PT、OT、ST 54名
- ・ 管理栄養士 4名
- ・ 社会福祉士 6名
- ・ 事務職員 11名
- ・ その他職員 12名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

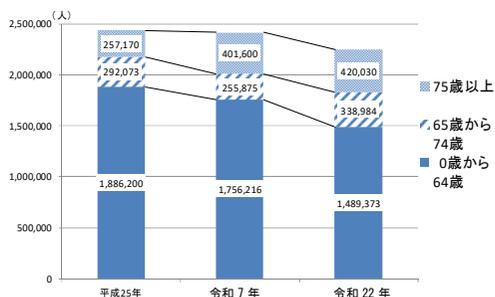
(人口の見通し)

- 名古屋・尾張中部医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

＜人口の推移＞ ※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口					
	平成25年	令和7年	令和22年	75歳以上人口			75歳以上人口		
				平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

＜名古屋・尾張中部構想区域＞



(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均と同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内(18病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされています。
- 平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU)については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

＜医療資源等の状況＞

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(km ²)	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

＜平成25年度の名古屋医療圏から他医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位: 上段 人/日、下段: %)

患者住所地	医療機関所在地												合計		
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部	西三河西部	東三河北部	東三河南部		県外	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325	
	88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%	
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743	
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
		84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%

- ・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
- ・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が10(人/日)未満となる数値は公表しないこととされており、「*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

<平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162	
		20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%

<平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289	
		41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	100.0%	

② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

③ 自施設の現状

○基本理念

- ・みんなで創るやさしい医療と介護、ひとり一人を大切に

○基本方針

1) 入院医療（回復期）

地域一般病棟及び回復リハビリテーション病棟として急性期治療後の患者さんを受け入れ、継続的な治療及びリハビリテーション医療を提供します。また、地域における軽症急性期や亜急性期医療を担います。

2) 入院医療（慢性期）

人工透析等、医療の必要性のある患者さんを受け入れ、継続的な医療及び療養生活を支援します。また、在宅療養を支援する機能を担います。

3) 外来医療

主に生活習慣病等の内科慢性疾患に対する管理指導・治療に取り組みます。

4) 透析医療・シャント血管外科

透析専門医による質の高い透析医療を提供します。また、入院患者さんについては当院にてシャントの管理を行います。

5) リハビリテーション医療

入院から在宅（外来・訪問・通所）のリハビリテーションを切れ目なく提供し、機能回復、日常生活活動の維持・向上を図ります。

○診療実績（令和4年4月～令和5年3月）

- ・届出入院基本料 地域一般入院基本料1 地域包括ケア入院医療管理料1
療養病棟入院基本料1 回復期リハビリテーション病棟入院料4
- ・平均在院日数：地域一般 22.3日、地域包括ケア 23.3日、療養 264.0日、回復期 55.6日
- ・病床稼働率：地域一般 62.3%、地域包括ケア 45.1%、療養 78.0%、回復期 78.7%
- ・入院延患者数：42,772人（月平均 3,564人 1日平均 117人）
- ・外来延患者数：20,475人（内科外来 5,661人 透析外来 14,814人）
- ・在宅関連：訪問診療件数 764回 往診 413回 看取り 7件（内在宅 4件）

○自施設の職員数 248名

- ・医師 32名（常勤5名 非常勤27名）
- ・看護職員 78名（看護師70名 准看護師8名）
- ・看護補助者 37名
- ・薬剤師 3名
- ・放射線技師 2名
- ・臨床工学技士 9名
- ・PT、OT、ST 54名
- ・管理栄養士 4名
- ・社会福祉士 6名
- ・事務職員 11名
- ・その他職員 12名

○自施設の特徴（4機能）

- ・回復期機能として、地域一般入院基本料届出病床（地域包括ケア入院医療管理料含む）と回復期リハビリテーション病棟入院届出病床を有している。
- ・慢性期機能として療養病棟入院基本料届出病床を有している。

○自施設の担う政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療に関する事項）

- ・脳卒中： 回復期リハビリテーション病棟において、脳血管疾患等リハビリテーションを実施している。
- ・糖尿病： 慢性腎不全で維持透析を実施している患者について、腎臓内科医師、糖尿病重症化予防の研修を受けた看護師、管理栄養士が協力をして、糖尿病および糖尿病合併症についての予防管理・指導とフットケアや透析中運動療法を中心とした治療を実施している。
- ・在宅医療：在宅療養支援病院として、同法人の高齢者施設を中心に在宅医療を提供。また、回復期退院後の患者について介護保険による訪問リハビリテーションを提供し、切れ目のないリハビリテーションを実施している。

○他機関との連携

- ・尾張北西部大腿骨頸部骨折地域連携バス会議に参加し、地域の病院と連携している。
- ・名古屋医療センターとの間で、脳卒中および大腿骨頸部骨折の地域連携バスを活用している。
- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院との間で、脳卒中および大腿骨頸部骨折の地域連携バスを活用している。
- ・名鉄病院との間で、脳卒中および大腿骨頸部骨折の地域連携バスを活用している。
- ・一宮市民病院との間で、脳卒中および大腿骨頸部骨折の地域連携バスを活用している。
- ・総合大雄会病院との間で、脳卒中の地域連携バスを活用している。
- ・大雄会第一病院との間で、下肢末梢動脈疾患の治療について連携を行っている。
- ・はるひ呼吸器病院・西名古屋医師会が開催する感染症カンファレンスに参加し、当該地域の感染症対策において連携を行っている。

④ 自施設の課題

○当院がある尾張中部医療圏は、高度急性期、急性期、回復期において自域依存率が低く、名古屋医療圏へ多く流出している現状があり、また、当院は地域包括ケア病床を有し、在宅療養支援病院の届出をしていることから、地域のかかりつけ医としての機能をより高めるためにサブアキュート機能を強化する必要がある。

○当院の外来患者のうち、70%以上は透析患者であり、かかりつけ透析患者の通院時以外での透析関連トラブルについて対応できる体制をつくることが課題となっている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病床を有する医療機関として、また透析センターを併設している特徴を生かし、回復期（サブアキュート含む）機能を充実させ、必要に応じて高次医療機関や在宅医療・介護のハブ的存在としての役割を担っていきます。
- 透析センターを有する療養病棟の特徴を生かし、通院が困難な透析患者やその他の慢性期患者に対する慢性期医療の役割を維持していきます。

② 今後持つべき病床機能

- 回復期機能が不足している現状を踏まえ、現在の回復期及び慢性期機能を維持します。

③ その他見直すべき点

- 病棟全体として、病床利用率が低下傾向であり、近隣の高齢者施設・居宅介護支援事業所等と連携し、サブアキュート機能を含む回復期機能を充実させるとともに、慢性期機能に関しても対象患者の見直しを行う必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞ 変更なし

	現在 (令和元年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	0		0
回復期	100		100
慢性期	60		60
(合計)	160		160

② 診療科の見直しについて

予定なし。

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率：回復期⇒80%（回復期リハ：87%、一般・地ケア：70.0%）、慢性期：88% ・ 手術室稼働：手術件数⇒280件（PTA・シヤント設置術・血管移植術等：2022年度実績） ・ 在宅復帰率：回復期リハ病棟⇒81.4%、地ケア：87.7%（2022年度実績） <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率：60% ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 <p>その他</p>
--

【4. その他】

- 救急告示病院として届出を行う。